



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書政策課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 子どもの貧困を救うために、いま私たちにできること

「笑う門には福来る」と申しますが、本年も皆さんにとって幸多き一年であることを願いながら、心新たに市政羅針盤をお届けいたします。

近頃、「子どもの貧困率」という言葉をよく耳にするようになりました。今月は、島田市の状況と私たちにできることについて考えてみたいと思います。

厚生労働省の発表によれば、平成 24 年の「子どもの貧困率」（18 歳未満）は 16.3%であり、およそ 6 人に 1 人の子どもが貧困状態にあると判明しました。貧困率とは相対的な指標です。可処分所得（収入から税金などを除いた、手取り収入）の全体のちょうど真ん中の順位となる世帯の所得を中央値とし、中央値の半分に満たない所得の世帯員の割合を貧困率といいます。また、中央値の半分の額を貧困線といい、1997 年の貧困線が 149 万円だったの対し、2012 年には 122 万円と低下しました。両親がいる世帯でも貧困率が上昇していることを勘案すると、子どもの貧困率の上昇（2003 年調査より 2.6 ポイント増）は、数字以上に深刻だといえます。

島田市の現状はどうでしょうか。貧困率そのものを調査したデータはありませんが、経済的な理由で児童・生徒を就学させることが困難な家庭と判断し、その教育費を市がサポート（就学援助）している児童・生徒数は、平成 27 年 10 月末現在で 546 人（援助率 6.96%）。これに 0 歳～6 歳（未就学児）と 16 歳～18 歳未満で貧困状態にある子どもの数を足したものが島田市の子どもの貧困率に近い数値と想定され、おおよそ 10%前後か

と推定しています。

市では、学用品や学校給食、校外活動などの費用を援助する「就学援助費」の支給や、学習でつまづかぬよう、他市より充実した時間数で支援員を配置しています。また、多くの小中学校で長期休業中の学習支援（集中補習）などを行っています。そして、毎年市内中学 3 年生 7 人が、谷田川報徳社から高校進学のための奨学金（年額 24 万円×3 年間・返済義務なし）を受けています。

国も「子どもの貧困対策の推進に関する法律」（平成 26 年 1 月施行）に伴い、平成 31 年度までにスクールソーシャルワーカーを全ての中学校区に配置することを計画しています。



乳搾り体験（校外活動）



フードドライブ（前回）

市民の皆さんにお願いしたいのが「フードドライブ」へのご理解とご協力です。フードドライブは、厳しい生活状況の中、職を失くしたなどの理由で急増する食に困る方たちに手を差し伸べるものです。今回は 1 月 5 日から 1 月 29 日（金）まで実施していますので、お家で不要となった食品（賞味期限などの条件あり）がありましたら、本庁舎総合案内へお持ちください。今後も、1 カ月単位で年 4 回程度実施していきますので、ご協力ください。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

おび通りと市内 3 カ所の JR 駅前を会場に、12 月 5 日からイルミネーションの点灯が始まりました。このイベントは、志太 3 市による広域連携イベント事業の一環として実施されています。

今回は、新市誕生 10 周年記念として「あなたが彩る街中イルミネーション」と題し、私たち島田商工会議所青年部や島田第一中学美術部など 8 つの市民グループが創作した作品を、おび通りに展示しています。

イルミネーションは、毎日午後 5 時から 10 時まで点灯し、2 月 14 日（日）までご覧いただけます。華やかな光の演出を、その目で確かめに出掛けませんか。（島田商工会議所青年部 伊藤さん）

